

---

MY FRIEND      マイ フレンド

NICO

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

MY FRIEND                   マイ フレンド

### 【Nコード】

N4074E

### 【作者名】

NICO

### 【あらすじ】

私と私の友達が巻き起こす人間ヒストリー。愛とは？男とは？金とは？金で愛は買えるのか。友達とは？友情は、嘘と偽りなのか？あなたに、親友はいますか？恋人は？考えて頂きたい。本当の愛と友情のために！

## 出逢い。

私は当時19歳。

専門学生をしながらデパートでアルバイトをしていた。

最初に仲良くなったのは、香美ちゃん、23歳。

見た目はショートヘアのおっとりしたお嬢様系。

仕事の部門が一緒だった。次に出会ったのが、この話の主演美樹である。

美樹は、バイトの休憩室で一緒になり、話し掛け仲良くなったのだ。

美樹は、顔は可愛いがめちゃくちゃデブだ。

私と美樹と香美ちゃん、三人で良くつるむようになった。

御飯食べに行ったり、三人でケーキを作ったり、プリクラ撮ったりと何をする訳でもない。

毎日の様に遊び歩いていた。

本当に仲の良い三人だった。

バランスがとれていたのかもしれない。

だが、段々、仲良くなるに連れて三人の本性が明らかになる。

私はB型である。

だから、かなりの自己中だ。美樹は、温厚で控え目だが男に狂ってしまふ傾向と嘘つきである。

香美ちゃんは、コロコロ笑い、可愛いお嬢様系だが、男にルーズである。

そんな三人とこれから巻き起こす珍道中の日々。是非読んで頂きたい。

女とは？男は？友達とは？金とは？恋愛とは？

私は考え、行動をお越し、恋や金、男を知っていく。香美ちゃんの自分主義があだとなり、友達を失うことに。

信頼できる友達を作る為に、どうしたら良いかを本当の愛を手に入

れる為に何をしたら良いかを。

私は思う。男に本当に愛されたかったら、友達を大切にしろと……。

彼氏と別れそうな時、彼氏が出来そうな時、自分が大切にしている友達ならフォロワーや褒め言葉を言ってくれるであろう。

だが嘘をついたり、友達を蔑ろにし、男優先の人はどうであろうか……。

## 疑惑

私には、好きな人がいた。シヨウである。

19の冬に、香美ちゃんとシヨウと私で香美ちゃんの家で鍋をする事にした。香美ちゃんの家は、両親が旅行に行つてしまい、1人になってしまふと言うことでシヨウを呼んだのである。

散々、香美ちゃんのまずい鍋を三人でつつき私は家が厳しいので帰ることにした。

私は、シヨウと香美ちゃんを残し、家に帰宅。

次の日香美ちゃんに、『シヨウは、あの後、家に帰った？』と聞いたら、香美ちゃんの答えは『朝帰った。』との事。

私はえええと思った。

いくら親がいないとは言え、一つ屋根の下に初めて逢つた男を泊めるなんて！ 私は香美ちゃんを疑った。香美ちゃんは『何もなかったよ。』言っていたが私の疑いは晴れずにいたのだ。何故なら、香美ちゃんの口癖は『恋は盲目って本当だね。』と良く言っていたからだ。

その後、何だかんだで香美ちゃんと喧嘩をして連絡をとらなくなつた。

美樹ともその時絶縁を同じくしてしまった。

後で解つた事だが香美ちゃんはシヨウと寝たのである。

女とは、怖い……。

逢つたその日に情事を行つてしまふとは……。

私は消して美人ではないが香美ちゃんに負けてる容姿ではない。

香美ちゃんも私もどっこいどっこいの外見だ。

だから、シヨウを取られるとか寝取られるとか張り合つとかを香美ちゃん自体に感じた事はなかった。

だって、普通連絡先を交換した後日逢うなら張り合いがいもある。

出会ったその日とは、私は信じられなかった。  
私の好きな人を寝取った女である。友情も終わるであろう。

## 再会

それから、半年以上がたち私はオモチャ屋で働いていた。  
新しい仕事先、新しい出逢い。

全て忘れてバイトをした。香美ちゃんと喧嘩したことで美樹は、香美ちゃんの味方に付き私は二度と連絡を取りたくなかった。

だが、美樹はお店に来ては声を掛けてきた。  
なんだよこいつと思っていたのだ。

あの香美ちゃんとの喧嘩で私ではなく香美ちゃんに付いたのが許せなかった。

それでも毎回来ては、声を掛けてくる美樹にいつしか話すようになり、連絡を取るようになった。

遊ぶようになって美樹に、一つお願いをした。  
『香美ちゃんに電話して、真実を聞いて欲しい。』と……。

美樹は、香美ちゃんに電話して真実を聞いてくれた。『香美ちゃん。先輩の好きな人と寝てないよね？』

香美ちゃんは、『寝てないのに寝たって言わなきゃいけないんかね？』と逆ギレ。『香美ちゃんが寝てないなら寝てないでいいんじゃない？だから寝てないんでしょ？』としつこく確認を美樹はした。その言葉に香美ちゃんは、またキレて『寝た！』美樹はえ？と思って

暫く黙っている。とまた香美ちゃんは『寝た！』慌てて美樹は電話を切る！

切った後、すぐに私に電話を掛けて来てくれた。  
真実を知った私はびっくり！

友達より、男を寝取る根性に呆れた！

人間誰しもが間違えはあるだが普通から考えてあり得ない。  
今更ながらに香美ちゃんは可愛い顔してババンバーンである。

友達に裏切られるとは、私には耐えられない現実だった。

## 花火大会。

私が二十歳の花火大会。 季節は夏。

たまたま美樹に電話をしたらこれから花火大会に行かないかと言うお声が……。夜遊びに美樹と私で出た。待ち受けていたのは、美樹の男友達三人。

当時二十四歳の悟樹と、美樹と同じ年の安行、雅史。三人に合流を果たした時は既に遅し、花火は終わっていた。

何故だか解らないが悟樹は、私を気に入ったらしく、その後も、電話や遊びに誘われた。

悟樹は、不細工ではないが他の美樹の友達にも同じように、モーション掛けていた。

だから私も断り続けていたのだ。悟樹をハブにして他の男二人と遊ぶ事が増えた。

飲みに行ったり、カラオケ行ったりして楽しくすごしていたが知らない間に遊ばなくなるといった。

そうこうしている内に、冬が来て遊び歩いてナンパされた。そこで知り合ったのが……。

ヨシナリとカズヤ。

ナンパ去れた日に意気投合。カラオケ言ったり、飲みに言っていた。

美樹は、自分がデブなのを気にしてるのかすぐ人を前に出す癖がある。

お店に入るときも『先行って』とか、『前に出て』とか言う。

美樹は自意識過剰すぎだ。すっげえ可愛くて、メッチャスタイル良ければ周りを見るかもしれない。

だが美樹はデブである。いくら顔が可愛いとしても皆の注目を浴びる事はない。

男に対してもそうだ。



美樹はすぐ好きな人をつくる。花火大会で出会った安行。ナンパ去れた、カズヤ。どれをとってもすぐ好きになり、次へ行っている。真面目に恋をしないのだろうか？丸で小学生みたいだ。

## ナンパ、ある男の出逢い。

美樹と私は毎晩の様に車でフラフラ出歩いた。

ナンパ去れに遊びに行ったら、ある男と出会ったのだ。

ナンパは去れたが、別に格好良くは全然無い。

スーツを着ていかにも仕事帰りに、ナンパしに来ましたというよう  
な出で立ち。その男の名は園部と言った。

私たちは、別に不細工が好きな訳ではない。

変にチャラ男にナンパ去れて、割り勘去れるより、少し不細工ぐら  
いがおごつてくれると踏んだのだ。

これが、私達の人生を大きく変える別れ道だった事を私達はまだ予  
想もしていなかった。

園部ともう一人デブの男もいた。

ナンパ去れたその日に、園部のアパートに行き、遊んで帰ったのだ。

それからと言うものの何かと園部のアパートに行っては、いびりた  
っていた。

私達は、若かった。

園部も美樹と同じ年だったし、私も二人の一個上。

恋に発展しなくても、楽しいお年頃。

ナンパで知り合って、深く信用が無くても、後先考えず遊びまくっ  
ていた。

私もバイトはしていたが、すっかり専門学校も辞めてうるさい両親  
を尻目に毎日バイトと園部のアパートの行き来であった。

私より、美樹の方がなかよかったに違いない。

だって、バイトに夜遊びに出掛けまくっていた私は、園部のアパー  
トで先に寝てしまう事が多かった。

仲良かったからなのか、園部の罫に私達は近づいていた。

まさか……。と思うような事件が起きる。起きてからの私と美樹は

転落の人生を送るのだ。

地べたを這いずり回る事になるとは、誰も予想していなかった。嫌園部は予期してたのかもしれない。

## 正体。

相変わらず、美樹と私は、園部のアパートにイビリたっていた。

ある日、美樹が私にこういった。『園部から就職先紹介してくれるって言われてるんだよね。』底で私も安易な答えをしてしまった。

『私も美樹と一緒に働きたいから紹介してもらおうよ。』この言葉から、園部の罠に掛かり始める。

私はバイトのオモチャ屋を辞め、仕事紹介を待った。その間も園部のアパートにイビリたった。

ある日、園部のアパートに言ったら本人不在。

本人不在なのを良いことに、窓から侵入。

そこで、マツクを食べ、脱走。

その時窓の止め金を壊してしまった。

これが後に大惨事となる。園部はのらりくらりしていて中々仕事を紹介せず、私は園部と遊ばなくなった。その間も美樹は、園部と逢っており、窓の止め金を壊してしまった事を白状してしまうのだ。

バカな女だそんな証拠どこにもないのだからシラを切れば済むことなのに、話してしまい金を巻き上げられた。

私と美樹は怪しいと思い、警察に駆け込んだ。

話を聞いて見ると、何と生活保護を受けていると言うではないか！詐欺師であった！

私たちは、それを聞き、園部を追跡する事にした。それから正体を知られた園部は、逃げまくった！アパートは、引越したり、携帯は出なかったり、逃げて私たちの追跡は続いたのだ。

しかも訳が解らないのだが園部は、足を骨折した事もあった。

多分以前にも、詐欺を働いていたのであろう。

イイキミである。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4074e/>

---

MY FRIEND      マイ フレンド

2010年10月10日06時36分発行